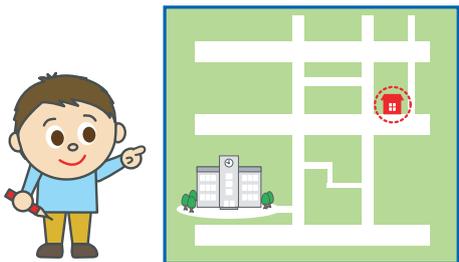


浸水ひなん地図の活用

ご自宅などが浸水するおそれがないか、浸水ひなん地図で確認しましょう。
避難指示・避難勧告が発令されたときに、スムーズに避難できるように避難場所の位置と避難経路を確認しておきましょう。

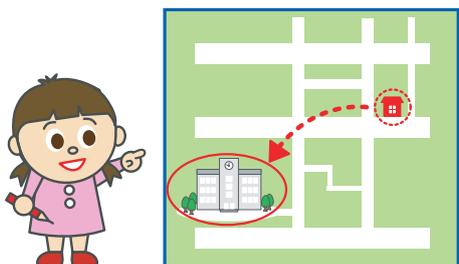
浸水ひなん地図の使い方

1 自宅などの位置に印をつけましょう



自宅などの位置に印をつけ、浸水ひなん地図の「浸水深の目安」を参考にして周辺の浸水箇所や深さを確認してください。なお、洪水ひなん地図（洪水ハザードマップ）を併せて準備し、洪水時における浸水状況についても確認しましょう。

2 自分たちの避難場所に印をつけましょう



内水はん濫では、浸水深が小さいため建物の2階以上へ避難しましょう。

ただし、より大きな雨が降り続いた場合には河川の堤防の決壊や河川からあふれた水による外水はん濫となるおそれがあります。場合によっては、避難場所への避難が必要となりますので自分たちの避難場所に印を付けて避難経路を設定しましょう。

3 実際に経路を歩いてみて安全か確認しましょう



設定した避難経路を実際に歩いて、避難にかかる時間や地図に記載されていない地形（階段や地形変化等）を確認しましょう。歩く際も浸水をイメージし、安全な避難が行えるように準備しましょう。

4 地域で協力して、より良いひなん地図にしましょう



地域で災害や避難について話し合い、情報を共有しましょう。また、高齢者等の避難に支援が必要と思われる方（避難行動要支援者）についても、地域でできることを考え、みなさんの安全が確保できるようにしましょう。